

4/13 第14回文芸講演会に多数来聴

柏木隆雄先生の語る三好達治に魅了された二時間

恒例の文芸講演会が三重県文の生涯学習センターで開催され、大手前大学学長の柏木隆雄先生が「三好達治の詩的世界」と題してお話しされました。われわれにも馴染みの深い「贅のうへ」が紹介され、「あはれ花びらながれー」の詩行が、韻律、視点の動きなどから精緻に読み解かれ、日本的な抒情をたたえた三好の詩にボードレルの影響があると説かれました。彼の私生活のエピソード（報われぬ恋）をまじえながら、詩人論、作品論が絶妙にミックスされたご講演でした。昨年、日本フランス語フランス文学会会長に就任され多忙をきわめる柏木先生ですが、今年、ちくま文庫から「ソーの舞踏会」、「暗黒事件」の二冊を相次いで上梓されました。長年のバルザック研究の結晶ともいうべきご訳業です。詳細は、三重日仏協会HPをご覧ください。(矢野 隆嗣)

5/11 奈良日仏協会「創立20周年記念式典」に参加

奈良日仏協会のお招きで、奈良女子大学で開催された創立20周年記念式典に豊田、大原、田中、矢野の四名が参加いたしました。講演はシャルランリ・ブローソー在京都総領事による「日本におけるフランス文化外交の90年」、三野会長の「フランス人作家たちの見た日本と奈良」、ジャメ副会長の「夏目漱石の時代の豊かな日仏交流」、いずれも格調高く居住まいを正して拝聴しました。懇親会では2010年本会総会の記念講演にお越しいただいた前会長の坂本成彦氏に改めてお礼を申し述べました。スナップ写真でお分かりになると思いますがパーティーは和気藹々でとても楽しく、主賓で参加されていた柏木先生のシャンソンも飛び出しました。(矢野 隆嗣)



(三重日仏協会) 会員音楽家の出演コンサート案内

◆ 8/3(日) 平和のための音楽会

日時：8月3日(日) 午後2時 / 会場：津リージョンプラザ お城ホール / 料金：500円  
針谷宏弥さん (ピアノ独奏) ショパン：夜想曲第8番 ほか  
村林浩代さん (ソプラノ独唱) グノーとシューベルト：「アヴェ・マリア」

◆ 8/3(日) みえ総文 子どものまつり M祭

日時：8月3日(日) 午前11時 / 会場：三重県文化会館中ホール / 入場無料  
荒木まどかさん (ハープ) ヘンデル：ハープ協奏曲  
三重ジュニア管弦楽団と共演

前号で紹介したコンサートの日時変更のお知らせ

◆ 9/27(土) 針谷宏弥ピアノ演奏会

日時：9月27日(土) 午後2時 / 会場：津リージョンプラザ お城ホール  
演奏曲目などは前号と変わりありません。連絡先：090-2184-0763 musaion@outlook.com

新刊書紹介 本会内田会長のマイウエイ

◆ 『何とかなる』/内田淳正著(三重大学学長)

昨年から今年にかけて中経新聞に連載され好評だった内田会長の「マイウエイ」が改題、出版されました。(中部経済新聞社発行/新書版 800円+税)



DONC どんく

N°101 juin 2014 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

〒514-0006 津市広明町418

418, Komei-cho Tsu-shi

TEL 059-226-2766

FAX

7/20 三重日仏協会創立27周年・日仏文化交流90周年  
2014年度総会、パリ祭パーティー  
ブローソー総領事が記念講演

三重日仏協会2014年度総会と記念講演、恒例の「パリ祭」パーティーを下記のように開催します。今回は、在京都フランス総領事シャルランリ・ブローソー Charles-Henri BROSSEAU氏をゲストにお迎えし講演をいただくことになりました。

総会議事以外は一般公開といたしますので、お問い合わせで多数ご参加ください。また年に一度の総会には、多くの会員各位のご出席と積極的なご意見を賜りたくお願いいたします。

記

◆ 日時：7月20日(日)

<受付開始> 15:00より

<総会議事> 15:30～

<記念講演> 16:00～

「日仏文化交流90周年によせて」

講師：在京都フランス総領事 シャルランリ・ブローソー氏

<パリ祭パーティー> 17:00～18:30

◆ 場所：プラザ洞津 (近鉄津新町駅西へ歩3分 tel 059-227-3291)

◆ パーティー参加費：6,000円

なお出欠のご都合を、同封のハガキにて7月13日までにご返信ください。

<シャルランリ・ブローソー総領事>

1968年 パリ生まれ46歳。パリ政治学院卒、フランス国立言語文化研究所を経て立教大学法学部に給費留学。1997年フランス外務省に入省。本部、日本大使館、国連本部、東南アジア課長などを歴任され昨年9月在京都フランス総領事に着任されました。

## 再訪 思い出のワインの旅

滝澤 秀行

21年前の1993年夏、津ワイン愛好会のメンバー4名で、ブルゴーニュへワインの旅をしました。その時のメンバーの一人が三吉会員で、彼がこの春仕事定年退職ということで、良い時期にワイン産地訪問したいねと言っていたことが今回実現しました。津<サンマルコ>で月に一度催しているワイン会のメンバーにも声をかけ7名にてボルドー・ブルゴーニュの2大ワイン産地を訪ねる旅となりました。

5月下旬から6月初旬にかけてはフランスでは気候が一年のうちで一番良いのではと思っていましたが、出発まえの予報では雨模様とのこと心配しながらの出発でした。幸いボルドーもブルゴーニュも天気恵まれワイン畑のなかを巡るには好適でした。朝6時に津新町駅から大阪関空に向かい、11時35分のエールフランスにてパリへ、乗り換えてボルドーへは午後8時30分に着きました。やっと着いたねと荷物を皆で待っていて30分、最後まで私のバッグが出てきません。空港事務所へ行くとそこにはすでに6名ほどの客が待っていました。みなバッグが出てこなかった人たちでした。女性の事務員さんから、あなたのバッグは、次の最終便に乗る予定だと聞かされ、簡易洗面セットとTシャツのはいった袋（写真）を事務的に渡され、翌日の昼までにホテルに届けるとのことで、皆さんに心配してもらいつつタクシーで市内中心部、グランドテアトルにほど近いホテルにてボルドー一泊目となりました。



翌日は、事前に予約していたチャーター車で午前中メドック地方のワイン畑を巡り（写真）、午後からはサンテミリオンにて昼食と街めぐりといそがしい一日となりました。前日の夕食は、軽く済ませようということでしたがやっぱりワイン産地、ホテル近くの広場に面したレストランにて肉料理とワイン3本を平らげる。今日は海鮮レストランを事前にチェックしておき、そこで8時から夕食。フリュイドメールの舟盛とムール貝の1キロバケツ（写真）に、もちろん白のグラヴ。ムール貝は小粒でしたが味は抜群で、お皿に食べた貝が山盛りになるありさま。10時過ぎにもう一軒ということでブラスリーへ、赤ワインとサラダ、フォアグラテリーヌ、キャナルなど注文するも食べきれず、ドギーバッグとあいなり、翌日のパリのホテルでの昼食に化けました。



メドックの名門シャトー・マルゴの前で

3日目は、ボルドーからパリへの移動で、パリのオペラ座近くのホテルには1時過ぎに着きました。明日のブルゴーニュ行きと、夜のショーを見るために各自ゆっくりと。

ブルゴーニュへは、ガールドリヨンからTGVにてボーンへ。ボーン駅から城壁の旧

市街の中心にあるホテルまで歩く。良い天気です。シャツ姿でも汗をかきかき20分程でホテルに着きました。昔風の日本でいえば民宿のようなホテルで、日曜の昼時ということでチェックインは3時から。広場に面したカフェ、レストランはどこも一杯で、やっとのことで7人が座れる店で昼食をとりました。もちろんワインはブルゴーニュの赤白各1本ずつ。午後4時半からは3時間のワイン畑めぐりとワインの試飲のコースとなりました。コルトンシャルルマーニュからロマネコンティを経てシャンペルタンまで、ワイン畑の間をぬって、左右の畑の名称を聞かせてもらいながら。ニュイサンジョルジュではワインの試飲をし、何本か購入。



ブルゴーニュ2日目は、コートドールのワイン畑をゆっくりとまわり、ワインの試飲もたっぷりと出来ました。21年前に訪問したサンロマン村の生産者アラン・グラを訪問しましたが、当時のオーナーから代がかわったようで本人は見えませんが、でも周囲のぶどう畑は昔を思い出させてくれました。6時ホテルにもどり、次のホテルへ移動。21年前にも泊まったルセップまでバッグをぐろぐろと。ホテル付属のレストランが、月曜定休ということで、ホテルお奨めの「ルベナトン」にて夕食。58ユーロのメニューと泡、白、赤を注文する。ヌーヴェルキュイジーヌ料理で、今回の旅行で一番の味わいでした。帰りがけスーシェフが日本人だと説明を受け、挨拶。東京から7年前、フランスにきている40歳前位の、杉村さんと立ち話をしました。ホテルに戻りロビーでしばらくゆったりしていると、ホテルの外を杉村夫妻が通りかかり、あれっとお互い気がつき、サロンにてビールを飲みながら歓談しました。

翌6日目はパリへの移動、3日目のホテルと同じホテルにて、午後はゆっくりと各自お土産など物色。

最終日のパリは、朝から小雨交じりの天気でした。9時半までにオルセーまで歩いてゆき、午前中見学。午後はエリゼ宮の横にある日動画廊パリ支店へ。

津市の画家・橋本心泉さんの展示会の初日ということで訪問。運悪く橋本さん4時にみえるということで近くのカフェにて時間つぶし、4人で、ワインを2本。4時に再び訪問し、ご本人と面会。橋本さんもびっくりされていた様子でした（写真）。パリ最後の夕食は、ビジネス街の広場に面したイタ



パリ日動画廊にて橋本画伯（中央）と

リアン。料理は美味しかったもののワインはすべてイタリアン、5人で4本空けました。これではまずいので、ホテルにてムルソーの白を飲み直しました。

あっという間の7泊9日の旅でした。ボルドー、ブルゴーニュとも3回目でしたが、思い出すことと新しい発見が交わり合い感慨深いものがありました。

帰りの飛行機の中でこの旅で飲んだワインの数を確かめたら、合計29本。一部イタリアもあった、“思い出のワイン”の旅でした。

（三重日仏協会事務局長）